

西山別院墓地整備工事 完了奉告法要のご案内

このたびの墓地整備を記念して、工事の完了を阿弥陀様にご奉告申し上げます。また、記念講演として、五条坂の大谷本廟より講師をお招きし、浄土真宗における納骨のあり方や参拝の心得などをお話頂きます。期日は下記の通りですので多数のご参拝賜りたくご案内申し上げます。

記

「本願寺西山別院
墓地整備完了奉告法要」

- 修行日時 2009 (平成21) 年 7月25日 午前10時～
- 場 所 本願寺西山別院本堂
- 記念講演 浄土真宗における納骨の意味

講師：浄土真宗本願寺派
本廟局 野川大卓

西山別院墓地が一新！

西山別院本堂の裏手にある墓地が、このたび整備工事を終えて装いを新たにしました。別院墓地の造成は平成8年頃。10年以上の歳月を経て参道にひび割れなどが生じ、美観を損ねていました。そこで、本年2月頃より整備工事を開始し、6月に竣工。参道には上質の加工ブロック用い、バリアフリーにも配慮しました。今後は、順次墓地駐車場の整備等も行い、さらに快適な参拝環境を目指します。

★完成写真



整備前

西山別院墓地永代使用権お申込み受付中

桂駅東口より徒歩3分。本堂に隣接しており景観良好です。駐車場あり。お申込みご希望の方は、別院寺務所までお問い合わせ下さい。 電話 075-392-7939

※ご宗旨が浄土真宗本願寺派以外の方は、お申込み頂けませんのでご注意ください

西山別院の講座案内

受講申込者 40名を越え、ますます大好評。 輪番大江智朗師による、分かり易い歎異抄

歎異抄講読 -第9回-

平成21年7月26日(日曜日) 午前10時～正午
場所:対面所 会費:500円

新規受講生募集中！ テキストをご用意します。お申込みは別院までお電話ください 電話 075-392-7939

夏季講座



平成21年
8月17日～19日まで

毎朝午前7:00から晨朝勤行(朝の読経)
引き続き法話

このたび、西山別院では、8月17日から3日間、毎朝7:00からの勤め後に、別院輪番・職員による20分～30分ほどの夏季講座を開催します。本講座では、浄土真宗における最も重要な経典「仏説無量寿経」を色々な角度から紐解いてまいります。ご参加は自由です。参加費、会費等はありません。皆様お誘い合わせのうえご来院くださいますよう、お待ち申し上げます。

本願寺西山別院報

く久お遠ん

〒615-8107
京都市西京区川島北裏町29番地
Tel: 075-392-7939
Fax: 075-394-4416
発行者: 大江智朗

わたしたちの西山別院は、本願寺教団の基礎を築かれた覚如上人創設の念仏道場であり、現在の本堂は、今から約四百年前の元和四年(一六一八)に建てられた本願寺の阿弥陀堂で宝暦六年(一七五六)この地に移築された由緒深い別院であります。また、浄土真宗本願寺派の僧侶を育成教育する研修道場を併設し、宗門の発展を担う重要な別院でもあります。

この研修道場では、年間八回の得度習礼と、六回の教師教修があります。

得度というのは、僧侶になるということです。宗派によっていろいろと違いはありますが、浄土真宗では、生涯をかけて、聞法と伝道に尽くすことを仏祖に誓い、御門主さまより度牒と黄袈裟を頂いて正式の僧侶になります。



研修道場

ビハーラって何？

輪番 大江智朗

聞法とは、如来様の働きを聞いて、わが身を正すことであり、伝道とは、如来様に生かされ、限りなきいのちを頂くことを慶び、その慶びを伝えることです。その僧侶としての最低限必要な行儀を身に付けるため習礼があります。仏教一般という修行とは違います。だから習礼と

いいです。だから習礼と

僧侶になるための基礎を学ぶのに専念します。教師は僧侶の範となるべき人の十日間の教修です。修了すれば住職になる資格が与えられます。入所される方の年齢も人数もその時々で違

研修道場入所から終了までの十一日間は、勝手な行動は勿論、携帯などの使用も不可、朝五時半の起床から夜十一時近くまで、テレビも自由時間もほとんどなく、仏教・真宗の教義、お経やお作法、宗門の理念や活動など

ありますが、三十人以上百二十人以内です。全国各地より僧侶や教師を目指して集まって来られます。外国の方も時々来られ、学習態度は極めて熱心です。その他、西山別院では各種の研修会があります。六月には、ビハーラ基本学習会、講師養成中央実習、基幹運動推進専従員研修会、得度習礼事前講習会等が一泊二日から三泊四日で行われます。

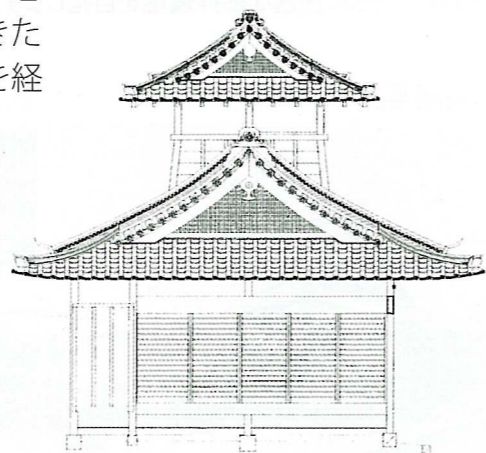
ところで皆さん、ビハーラって、ご存知ですか。ビハーラは、古いインドの言葉、サンスクリット語で「心身の安らぎ・くつろぎ」「休息の場所」「精舎・寺院」を意味します。誰もが逃れる事の出来ない「老・病・死」(2面へ)



大江智朗 (おおえちろう)
昭和6年5月1日生まれ
本願寺西山別院輪番(代表役員)・浄土真宗本願寺派得度習礼教師教修所長

太鼓楼 文化財保護事業完了奉告法要

西山別院境内の北東部に位置していた太鼓楼は、18世紀頃に建てられた江戸期の建築です。古くからのご門徒のお話によれば、明治の終わり頃まで、楼内の太鼓を打ち鳴らし周囲に時を告げていたとのこと。しかしながら、昨今老朽化が著しく倒壊の危険性が生じてきたため、文化財保護の観点から解体保存を実施。約2ヵ月間の工期を経て部材の凡そ90%を保存することができました。そして、去る6月13日、文化財保護事業完了を仏様にお伝えする奉告法要を本堂で行い、約50名の参拝者の皆様と共に、事業の成功を祝しました。



太鼓楼（木造二階建、入母屋造）設計図面。解体保存の施工業者、株式会社木澤工務店様の作成。太鼓楼復元時の重要な資料となります。

法要後の記念講演では、京都府文化財保護課主査菅澤茂氏が、太鼓楼や本堂の文化財的、歴史的価値を分かり易く説明。後半はスライドを使用して、ご自身が工事主任を勤めた、本願寺御影堂修復工事の貴重な映像を紹介下さいました。



太鼓楼という名の示す通り、楼内二階部分には太鼓が吊り下げられていました。材料は檜の一本彫りで、直径1.5メートル、牛革が二面に貼られた、鉦打ち太鼓の構造です。法要中は本堂内に展示し、その大きさから参拝の方より驚きの声が上がりました。

太鼓



蠟燭棧瓦

太鼓楼の屋根には蠟燭棧瓦（ろうそくさんがわら）が多数葺かれていました。現在、京都市内で同様の瓦が残るのは妙心寺の一部の建物だけで、大変希少価値の高い瓦といえます。この度の保存事業では、葺かれていた瓦の約30%を保存しました。



参拝者の皆様と記念撮影。多数のご参拝、誠にありがとうございました。

の苦悩について、医療や福祉だけでなく、念仏者として、如何に生きるか、どのように向き合い対処するかという課題があります。浄土真宗本願寺派では、二十二年前の昭和六十二年に「ピハークリニック」が始まりました。それは、念仏者が医療・福祉とチームワークを組み、支援を求めている人々を、孤独のなかに置き去りにしないように、その心の不安に共感し、少しでもその苦悩を和らげようとする活動です。そして私たち自身が、苦しみや悲しみを縁として、自らの人生の意味を尋ね、死を超えた心の絆を育んでゆくことを目指しています。

すなわち「ピハークリニック」とは、「生・老・病・死」の苦しみや悲しみを抱えた人々を全人的に支援するケアであり「願われているいのち」の尊厳性に気づかされた人たちが集う共同体の実現を目指す活動です。本願寺では、昨年の春、城陽市に有床診療所「あそかピハークリニック」と特別養護老人ホーム「ピハークリニック」を開設

- ※①得度習礼…浄土真宗本願寺派の僧侶資格を多くとどしゅうり得るための研修。真宗教義では自力修行が否定されているため、研修という
- ※②教師教修…浄土真宗本願寺派の僧侶資格を有する者を対象とした研修。住職資格が得られる
- ※③度 牒 ちょう ども…浄土真宗本願寺派の僧侶資格を有していることを証明する証書
- ※④中央実習…浄土真宗本願寺派の開催する各種研修会の講師を養成する実習
- ※⑤基幹運動…教団に所属するすべての人びとが、私と教団のあり方を見直し、一人ひとりの苦悩に共感し、社会の現実に向きあってあゆむことで、御同朋（おんどうぼう）の社会の実現をめざす運動



あそかピハークリニック
<http://asokavihara.jp/>

〒610-0116
京都府城陽市奈島
下ノ畔3-3
TEL：0774-54-0120



し、ピハークリニック活動実践の拠点として実施しています。六月二日から二泊三日で、第二〇期生四十五名が全国各地から集い、ピハークリニック活動について研修の第一歩を踏み出されました。（ア）

コラム お盆のお飾り

お盆のとき、お仏壇のお飾り（荘厳）について、「特別な飾り方があるのでは」とご門徒の方から尋ねられる事がよくあります。確かに一部の地域の風習や他宗派では、精霊棚をつくってお膳を用意しナス・キュウリなどを牛や馬に見立て、先祖の精霊をお迎えするという、独自のお飾りをする場合もあるようです。しかし、浄土真宗では一般の法事などと同じように、お花を入れ替え、餅・菓子・果物などをお供えし、前卓には打敷を用意するだけで、特別なお飾りをすることはありません。

なぜなら、浄土真宗では故人は、阿弥陀仏のお力によって極楽浄土へと往生され、阿弥陀仏と同じように、常に私たちに、はたらきかけてくださっているのです。

ですから、「お盆」だけを特別とするのではなく、平日頃より仏前を丁重にお飾りし、阿弥陀仏を敬う気持ちを表すことが大切なのです。

浄土真宗における「お盆」というのは、亡き人をご縁として、自らが仏法と出遇う行事とお考えください。決して、『先祖のために供養する』という行事ではありません。

亡くなった有縁の方々を偲びつつ、仏法を聞かせていただき、阿弥陀様のお力によって救われていく身の幸せを慶ばさせていただきます。